

## 新交通システム（水上交通・渡船）FunabaSea Bus プロジェクト実験 報告

### 【新・水上交通プロジェクトの目的】

船橋市街地は慢性的な渋滞が起こりやすい上に、新設予定の谷津船橋インターチェンジが出来ると、さらに交通渋滞が予測される。そこで海老川の南北軸を活かし、内陸と港湾部を結ぶ Sea Bus の渡船事業により、交通渋滞の解決策および CO<sub>2</sub> 排出の緩和を目指そうとすることが背景にある。また、船橋住民等への船橋の川と海に関する水上からの学習、環境保全に向けた市民意識の高揚、船橋らしい都市観光の創出にも資するものと考えられたことも理由となっている。

船橋の深刻な交通渋滞緩和と、近隣都市において取り組みのない、新たな船橋の魅力（観光・レジャー要素）と住民のアメニティ向上（水辺の癒しスポット等）につながることで、また将来通勤の足となるかもしれないということが期待される。さらに、南極観測船しらせの船橋停留や、他団体のイベント等と併せて、水上から船橋の資源の魅力と自然環境学習の場として効果が期待される。

### 【新・水上交通プロジェクトの内容】

船橋の深刻な交通渋滞と環境的側面において、船橋の港から本町三丁目海老川橋までの新たな交通ルートとして、海老川に沿って南北軸に小船を渡し、駅から停留場までのアクセスを短くすることで、海辺の商業施設やその他施設の利用が自動車に代わる環境に優しい公共交通として運行する。FunabaSea Bus とは、船橋と船橋漁港が日本一の水揚げを誇るスズキ科の英語 Sea bass を水上バスとかけ、船橋らしいネーミングとした。

運行は、7 月から 12 月までの間に実験的に行い、住民の反響を伺いながら新たな観光・レジャースポットの発掘または進展の可能性および環境に優しい船橋の新たな魅力的なまちづくりのきっかけづくりを提供する。また、海老川で分断された東西の交通量を渡船により分散し渋滞の緩和をねらう。加えて、海老川から船橋市を見つめながら、官能検査を実施し、他組織団体と連携しながら、一体的に水辺再生の関心を市民にもたせられる公共の学習の場としての機能と役割を目指す。

### 【新・水上交通プロジェクトのスケジュール】

平成 22 年 5 月 船橋市漁協より「あさかぜ」船の貸出許可、覚書 締結

6 月 船の改装、備品修理、コースデザイン設定、  
チラシ作製、船長募集、小型船舶検査機構申請及び承認取得

7 月 実験運航許可申請及び承認の取得

（千葉県葛南港湾整備センター、運輸局、千葉県葛南港湾事務所）

24日 FunabaSea Bus オープニングセレモニー  
8月 28、29日 実験  
9月 18日 実験  
10月 港まつりイベント実験（悪天候の為、中止）  
23日 実験  
11月 20、21日 実験  
12月 18、19日 実験  
平成23年 1月 24日 実験運航 事業成果の編集 会議  
2月 12日 実験運航 事業成果の検証 会議  
3月 15日 実験運航の次年度以降の事業実施および提案の検討

#### <運航・欠航に関して>

干満の関係で運航していることを明記する。

欠航の判断は、風速10メートル以上で欠航とする。

欠航の案内は、当団体ホームページにて、前日22時までに掲示する。

#### 【新・水上交通プロジェクトの実験・市民アンケート調査】

水上バス実験運航に訪れた人を対象にアンケート調査を実施。このアンケートでは、舟運利用に対する希望、今後の利用頻度などを調査し、船橋での舟運の有用性を把握するための質問を行った。

<PDF：市民アンケート>

#### 【新・水上交通プロジェクトの実験・企業社員アンケート調査】

周辺企業に対して、電話によるアンケート調査の依頼を実施し、その内の28社に協力していただけることになった。アンケート方法は、5部ずつ郵送し、最高で5部アンケートを回答、返送していただいた。

内容としては、①渡船について、②新たな交通集団として渡船が成り立つかについてである。

<PDF：企業社員アンケート>

#### 【新・水上交通プロジェクトの実験の様子・写真】